

新年を迎えて

平成30年、新たな年を迎えました。改めてよろしくお願い致します。

去年は色々とお手紙を送付し、仏教のことをお伝えしてきましたが読んで頂けたでしょうか。なにぶん、文章ばかりでしたからなかなか読み辛かったと思います。

そこで今回のみ少しだけ、絵を入れようかと思えます。



左は現在、私が御朱印として出しているもので昨年何度か話に出てきた「中道」を表すものです。絵が下手でありあまり見えないかもしれませんが、左には「琵琶」を書いています。仏教では「中道」を表す例えとして琵琶のたとえ話があるのです。「琵琶の弦は、強く締め過ぎれば切れてしまう、弱く締めれば音色が悪い、弦は中ほどに締めるのが良い」

というお釈迦様のお話が残っています。

ここで大切なのは「中間が良い」ということではないのです。なぜなら「中間が良い」と決めつけてしまうことも一つのしがらみになってしまうからです。

「自分勝手な極端に寄らず、しがらみに囚われず、状況により一番良いところを選ぶ」ということです。そういった意味合いもあり、私として分かりやすい言葉として御札にも入れている「人事を尽くさば・・・」という言葉にしています。

新年に良い結果を招くにはこの「中道」によって、人や物事・仕事などで良縁を結ぶことが必要だと私は思っております。

そのためには「中道」という人が歩むべき「道」・指針というものを心がけることも大切ですが、「八正道」という具体的な実践行動を伴うことも重要です。

- | | |
|-----------------|------------|
| ①正見 (しょうけん) | ・・・正しい見方 |
| ②正思 (しょうし) | ・・・正しい考え方 |
| ③正語 (しょうご) | ・・・正しい言葉 |
| ④正業 (しょうごう) | ・・・正しい行い |
| ⑤正命 (しょうみょう) | ・・・正しい生活 |
| ⑥正精進 (しょうしょうじん) | ・・・正しい努力 |
| ⑦正念 (しょうねん) | ・・・正しい気づき |
| ⑧正定 (しょうじょう) | ・・・正しい精神統一 |

があげられます。

その中でも今年はずひ一番上の「正見」をについて書きたいと思えます。

「正見」とは文字通り、正しい見方のことです。昨年5月の鬼子母神大祭でもこの逆の「邪見」が一番いけないといったばかりですが、やはり一番大切なものです。

例えば先ほどの琵琶ですが、もし琵琶を演奏するにしても屋外で演奏するなら周囲によく聞こえるように高い音を出す為に若干弦を強めに張るかもしれませんが、静かな低い音で演奏したいと思えばやはり弦を緩めると思います。周囲の状況というものが正しく見えていなければ正しい弦の張り方、すわなち中道というものは尽くせないのです。だからこそ、先ほどいった「中間が良い」と決めてしまうのは良くない、と記載したのはこの「状況に関する対応」というものができなくなってしまう為です。

さて、琵琶はなかなか皆様に縁がないのももう少し現代の具体的な話に置き換えてみたいと思います。昨年話題になったニュースに「陸上で魚を養殖」というものがありました。ご存知の方も多いかもかもしれませんが海のない場所でも施設を建設して魚を陸上養殖しよう、という動きです。私はまずこのニュースを見た時になんでこんなに手間のかかることをするのだろうと思いました。確かに漁業は漁師さんが人手不足や燃料高騰で苦しく、漁獲高が落ちてきているというのは聞いておりました。また、天候などに左右されるため、漁獲量の予測がたて辛いなどの問題があると。しかし、養殖をするならやはり海で網の生簀で行った方が水の確保や建物を建てる必要がないという意味でも良いのではないかと思ったのです。しかし、これは私が下記の事情を知らなかった、正しく見えていなかった為にそう思ったのです。

その事情というのが下記です。

- ・世界で和食ブームがあり魚の需要が増加中。今後もさらに増加が見込まれる。
- ・海での養殖は漁業権の問題があり、住民票の取得や地元の漁協組合に強化をもらう必要があるなど参入のハードルが高い。
- ・近年は工場のような場所でなくとも例えば空き家や廃校舎の中でも可能になった。などの様々な理由があるそうです。また、陸上養殖は電気代などの費用が掛かるため、ヒラメやトラフグなどの高級魚がメインになるそうです。なるほど、確かに状況をよくよく聞いてみれば陸上養殖も可能性はあるなと思いましたし、実際に水産庁のデータではヒラメやクルマエビは陸上養殖が海での養殖量を上回っているそうです。今後は高級魚を中心に陸上養殖が増えていくのかもしれませんが。

この件は、少々規模が大きいかもしれませんが我々の日常も同じだと思います。なんとなく今までの慣習で行ってきたこと、それが最良とは限らないのです。仏教では「諸行無常」という有名な言葉があるように「諸々のものは常に移り変わっていく」と考えています。そのため、変わらない行動をとり続ける、ということは周辺の状況が変わっていくことにより最良の行動と離れていく可能性があるのです。

ならばどうするか。それはやはり「正見」、慣習や思い込みなどによる「偏見」を捨て、正しく見ていくしかないのです。ご家庭の状況はどうか？仕事の状況はどうか？人間関係は？全てを見るのは難しいですが、最近、ふと違和感や疑問を覚えた部分があればその部分をよく見てください。そこに、もしもあなたの知らないことがあり、それを正しく見ることができれば、良い方法を考えることができるかもしれません。そしてそれは例えば家庭円満や商売繁盛に繋がるかと思えます。

今年はぜひ、偏見なく、視野を広くする「正見」ということを意識して頂ければと思います。

